

佳作

私のひいばあちゃん

岡山県倉敷市立大高小学校三年 中山 結菜

私には九十才のひいおばあちゃんがいます。ひいおばあちゃんは九十才になっても毎日元気にすごしていて、家族みんなからとても大事にされています。九十才でも元気でいられる理由や、まわりの人から大事にされているひいおばあちゃんは、どんな人でどんな生き方をしてきたのだろうと知りたくなりました。

ひいおばあちゃんは元々大阪に住んでいましたが、四年前に岡山へ引っ越してきたので会うことがふえ、たくさんのお話を聞きました。

ひいおばあちゃんは八人兄弟の長女で、小学生の時から弟や妹たちのために家のお店を手伝って、家族を助けていました。小学六年生の時にはせんそうもけんしやをして、食べる物もない中、みんなと協力しながら生きてきたそうです。大人になってからは、

ふた子が生まれましたが、私のひいおじいちゃんがじこでなくなつたので、一人で二人を育てて、たくさんくろうをしてきたと聞きました。

せんそうをけいけんしたひいおばあちゃんには好ききらいがなく、毎日三食のこさず、

「おいしい、おいしい。」

どうれしそうにごはんを食べています。九十才になってもプールや旅行に行つて元気に動き回り、何か自分にできることはないかさがして、だれかのやくに立ちたいと考えているみたいです。よく食べて、人のためによく動き、いつもえがおでいることが元気の理由だと思いました。

そして、ひいおばあちゃんはどんなに大変でも文句を言わず、いつも自分よりだれかのためを思つて行動する人です。そして人のわる口を言ったこともないと私のおばあちゃんが教えてくれました。そんなせいかくのひいおばあちゃんだから今までもずっと大切にされているんだと思います。

今、ひいおばあちゃんにはん知しようというびょうきで、色んなことをわすれてしまします。毎日会つていても、

「ゆなちゃん、ひさしぶりだね、ようち園楽し

い？」

と言われるので、私は、

「ひさしぶりだね、小学生になったよ。」

と教えてあげます。同じ事を何回も言われる時もありますが、私のことは忘れずにいてくれるのでそれがちよっぴりうれしいです。

私もひいおばあちゃんもがんなのでケンカしてしまう時もありますが、私はひいおばあちゃんが大好きです。にん知しようになつてもまわりの人にも感しやをしていて、

「しあわせ、ありがとう。」

と言えるひいおばあちゃんがかっこいいです。私もひいおばあちゃんのように人からそんけいされて、大事にされるような人間になりたいです。

これからも長生きしてね、ひいばあちゃん。